

# ほほえみ

10周年記念号



2009

大崎重症心身障害児(者)を守る会

# 全国重症心身障害児(者)を守る会

## 会の三原則

- 1、決して争ってはいけない。争いの中には弱いものの生きる場はない。
- 1、親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加するものは党派を超えること。
- 1、最も弱いものをひとりももれなく守る。

## 親の憲章(親の心得)

(生き方)

- 1、重症児をはじめ、弱い人びとをみんなで守りましょう。
- 1、限りなき愛をもちつづけ、ともに生きましょう。
- 1、障害のある子どもをかくすことなく、わずかな成長をもよろこび、親自身の心のみがき、健康で豊かな明るい人生をおくりましょう。

(親のつとめ)

- 1、親が健康で若いときは、子どもとともに障害を克服し、親子の愛のきずなを深めましょう。
- 1、わが子の心配だけでなく、病弱や老齢になった親には暖かい思いやりをもち、励まし合う親となりましょう。
- 1、この子の兄弟姉妹には、親がこの子の命を尊しとして育てた生き方を誇りとして、生きるようにしましょう。

(施設や地域社会とのつながり)

- 1、施設は子どもの人生をゆたかにするために存在するものです。施設の職員や地域社会の人々とは、互いに立場を尊重し、手をとりあって子どもを守りましょう。
- 1、もの言えぬ子どもに代わって、正しい意見の言える親になりましょう。

(親の運動)

- 1、親もボランティア精神を忘れず、子どもに代わって奉仕するところと行動を起こしましょう。そしてだれでも住みよい社会を作るよう努力しましょう。
- 1、親の運動に積極的に参加しましょう。親の運動は主義や党派に左右されず、純粋に子どもの生命の尊さを守っていきましょう。

第18回重症心身障害児(者)を守る会全国大会  
(昭和56年6月13日)にて制定  
社会福祉法人 全国重症心身障害児(者)を守る会

## 10周年記念誌発刊にあたって

大崎重症心身障害児(者)を守る会  
会長 大友祥子

平成11年9月28日、小さな会が生まれました。翌日には、現在の北部保健福祉事務所大会議室において、福祉関係者を始めとするおよそ160名の関係各位のご参加をいただき発会式を開催することができました。

そして、今秋、設立10周年を迎えることができましたことは、ひとえに多くの皆様のご理解とご支援の賜と、心より感謝申し上げます。

発会以前は、大崎地域では重症心身障害児・者の親たちは、互いに繋がることができませんでした。平成9年に二人のお母さんと一緒に呼びかけ、古川養護学校の親たち有志38名が重症心身障害児施設のエコー療育園を見学しました。そして、それをきっかけに子どものために何かをしなくては、との思いがつのり、全国重症心身障害児(者)を守る会宮城県支部大崎分会として、11名の会員で発足したのです。

「わが子とそして隣の子も一緒に幸せになっていくことを思ったときに会ができるのですよ。」との先輩の言葉が、私たちの背中を押して下さったのです。

子供たちの体調の良い時が母親が動けるときですから、6月から11月くらいの短い期間内での行事が多くなりますが、発会以来毎月の定例会は欠かさず行ってきました。

発会当初は福祉勉強会・施設見学・会報の発行が主な事業でした。徐々に先輩方のお話を伺う機会や、宮城県守る会初代会長をお招きしての茶話会も開くことができるようになりました。宮城県守る会との共同事業として、大崎地域を対象とし、第2あやめ学園で実施したスヌーズレンは、守る会の組織力があつたからこそできた事業であつたと強く印象に残っています。

3年前からは大崎市に対して要望書を提出するまでになり、少しずつ会の成長を実感できるようになったことは、会員にとっては大きな励みでもあります。

また、ジャスコさんのご協力で始めましたクリスマス会をきっかけに、いつも物心両面で支えていただいております賛助会員さんと共に夕涼み会を開く事ができるようにもなりました。

昨年は、重い障害があつても地域で生活を続けたい思いを、地域参加型のシンポジウムという形で実現をすることができました。重症心身障害児・者は、世間からは見えづらい子ども達です。つまり「見ないものは思わない。」の諺どおりの存在でしたので、子供たちの存在を前面に出してこのシンポジウムは、私たちが驚くほどの反響をいただきました。

これまで、手探りでひとつひとつやってきました。定例会では母同士で話を聞いてもらい、そして聞いてあげ、その繰り返しが次に繋がっていくと実感しております。

これからの福祉がどのような方向に向かうかは不透明ですが、「最も弱いものを一人ももれなく守る」という守る会理念のもと、地道に活動を続けてまいりたいと考えております。

今後とも、より一層のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 大崎重症心身障害児(者)を守る会の創立十周年に寄せて

宮城県重症心身障害児(者)を守る会

会長 秋元俊通

大崎重症心身障害児(者)を守る会の創立十周年おめでとうございます。会員皆様のこれまでの活動に敬意を表すとともに、今後のご活躍にご期待申し上げます。

私が宮城県守る会の会長に就任して、最初の対外活動が大崎分会の設立でしたので、なお更強く記憶に残っており、この10年を振り返ると私自身も感慨深いものがあります。

現会長の友大さんが宮城県守る会に入会される前は、ぴゅあすまいるという超または準超重症児といわれる児童が通う養護学校の保護者の集まりに所属されておられましたが、組織力を求めて当会に入会されました。入会されて直ぐに当会の総会の席上、養護学校での医療ケアの必要性と看護師の派遣を訴えられ、たまたまその時に講師をお願いいたしました県福祉事業団の理事長がそれを取り上げ、宮城県に働きかけていただき、全国に先駆けての「要医療行為通学児童生徒学習支援事業」が開始されました。

これで組織の力を一層認識されたためでしょう、友大さんは次に地域での組織作りに目を向けられ、お住まいの大崎地区に守る会の分会を立ち上げるべく運動を展開され、県守る会も地域交流懇談会を開催する等の支援を行い、見事に分会が設立されました。

大崎守る会は、「重症心身障害児・者が地元で安全安心に生活するには何が必要か」をメインテーマとして、今日までいろいろの活動を企画運営され、それを通して地元の支援組織も作られ、行政ばかりではなく地元の皆様にもその存在を認知されるようになりました。在宅の保護者を中心として、多くの地元支援者に励まされてのこれまでのご活躍に敬意を表するところです。

今後は、在宅の方の福祉サービス等が地元だけで完結することを求めるばかりではなく、地域の少ないサービスを他の地域にも提供できたり、他の地域のサービスも利用できたりするような広域的に目を向けた運動の展開もお考えいただけることを期待しております。また、重症児・者はこれまで宮城県の児童相談所が窓口でしたが、今後は地元市町村がその担当窓口に移る傾向にあります。しかし、地元市町村ではこれまでの経緯により重症児施設在処者にあまり関わってこられなかったため、その理解度が低い傾向にあります。在宅者支援ばかりではなく、是非、施設在所児・者およびそのご家族への支援にも心がけていただけるよう期待しております。

今後も「最も弱いものを一人ももれなく守る」の守る会の基本理念のもとで、地域の皆様からの共感を得られるような運動の展開をご期待申し上げ、創立十周年のお祝いとさせていただきます。

## お祝いのことば

大崎市長 伊藤 康志

「大崎重症心身障害児(者)を守る会」が、創立10周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

貴会は、日頃から「もっとも弱いものを一人ももれなく守る」との崇高な理念のもと、大崎市のみならず県内で同じ悩みを抱えている家族の方々と連携され、ご活躍されていますこと、更には本市の福祉行政に対してもご支援、ご協力を賜っておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年7月12日に大崎市三本木総合支所のふれあいホールを会場にシンポジウム「重い障害があってもみんなと一緒に地域で暮らす方策を考えるシンポジウム」を総勢220余名の参加のもと開催され、貴会の会員のみならず、医療・福祉・教育等に携わる関係者をはじめ多くの市民の方々が参加され、家族の方々からの日々の生活の紹介や切実な声を通して地域での支援の必要性を訴えられ、会場に参加された皆さんと理解を深められたとお聞きしております。

この大崎地域には、重症心身障害児(者)の方々を受け入れるための施設等が不十分であり、貴会から大崎市民病院の建設に際しての要望書が提出され、現在、院内において施設の整備も含めた検討を行っているところですが、今後も引き続き、貴会と意見交換を行いながら、必要があれば県にも働き掛けを行っていきたいと考えております。

さて、平成18年4月に「障害者自立支援法」が施行され、本市においては、平成19年4月から独自の負担軽減策を講じ、利用者の方には安心な生活、事業主の方には経営の安定が継続的に維持できるよう取り組んでまいりました。

本市では、総合計画が目指す「地域で支え合う社会福祉の充実」を基本に、大崎市障害者計画・障害福祉計画の基本方針である「地域に暮らすすべての人がいきいきと生活できる社会」の実現を目指し、「障害者自立支援法」の見直しを注視しながら積極的に取り組んでまいります。今後とも、本市福祉の向上に一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

最後に、「大崎重症心身障害児(者)を守る会」の益々のご発展並びに会員皆様のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げましてお祝いのことばといたします。

## 子ども達の明るさに感謝

宮城県立古川支援学校

校長 金野 和 男

大崎重症心身障害児(者)を守る会がこの9月で設立10年を迎えました。設立以来様々な困難を乗り越えて会の運営に当たってこられた会長様はじめ会員の皆様のご尽力に敬意を表します。「最も弱いものをひとりももれなく守る」の理念のもと地道なご努力により、会員や賛助会員を増やしてこられました。ご自身のお子様のためだけではなく、あらゆる弱者のために精力的に活動されている姿から、生きる力を頂きました。感謝申し上げます。

会では大崎重症心身障害児(者)の福祉増進のため多くの事業をされています。昨年は、「重い障害があってもみんなと一緒に地域で暮らす方策を考えるシンポジウム」を開催されました。障害児(者)やその家族がどんな日常を送り、どういったことで困っているのか、具体的に世の人たちに知ってもらいたいとの一心で、大変なご苦勞の末、開催に漕ぎつけられたと伺っております。

今年で3回目となった「夕涼み会」に参加しました。心のこもった手作りの催しでした。参加した本校の子供たちも、楽しく心地よい音楽に非常によい表情を見せていました。

これからも目的達成のため、会員の皆様が協力し合い、元気で明るい会であるようご期待申し上げます。その親の明るさは、障害児(者)であるお子様の明るさでもあります。



H21.7.19  
夕涼み会に校長先生はじめ  
先生バンドと飾り付けのご協力を  
頂きました



## 設立10周年を祝して

社会福祉法人 大崎誠心会

第二あやめ学園 園長 笠原利彦

この度大崎重症心身障害児(者)を守る会設立10周年を迎えられましたこと誠にめでたうございます。

今日に至るまでの道のりを顧みますと、昭和56年6月開催の“重症心身障害児(者)を守る会全国大会”において制定された「憲章」の下に、関係皆様方の並々ならぬご苦勞と努力により業績が積み上げられてきたものと、ご推察申し上げます。

活動におきましては、行政機関を初めとする関係機関への働きかけ、医療機関等との懇談会、シンポジウム開催、ボランティア活動等々、多岐にわたり積極的な事業展開の跡がうかがわれます。

当施設に対しましても、日頃から心温まる励ましと多大なるご支援とご協力をいただき、利用者並びにご家族とともに改めて感謝申し上げます。

近年、福祉を取り巻く環境は依然として厳しい状況下であり、特に「障害者自立支援法」の施行に伴い、利用者及び事業者の負担が増加し、制度の見直し等が叫ばれているなか、さらに大きな変革を迎えようとしています。

施設といたしましても推移を見極めながら、利用者皆様がより安全安心な地域生活を送れるよう支援に努めてまいりますが、今後におきましても大崎分会様のご支援ご協力をお願い申し上げ、さらなる発展とご活躍をご祈念申し上げます。



H21.7.19

夕涼み会にて B型職員の皆様に  
ボランティアとしてご協力頂きました



## 大崎重症心身障害児(者)を守る会 10周年を迎えるにあたって

大崎市民病院

小児科 工藤 充哉

大崎重症心身障害児(者)を守る会が、この度、10周年を迎えたとのこと日頃からの活動に敬意を表したいと思います。

昨年のシンポジウム開催や、定期的に行っている夕涼み会、クリスマス会、会報の発行など、みなさんの手作りの活動がすこしづつ社会に広がっていている気がします。

政権交代はなされましたが、医療、福祉の様々な問題は変わっていません。病院の方も、新病院建設、今後どのような医療を提供していくのか？考えなければならないことが多々あります。小児科もみなさんの要望や、地域の子供たちに必要なものはなにか？しっかり検討して、少しでも良いほうに現状を変えていきたいと思っています。

今年の夏初めて宮城県難病キャンプに参加しました。当地でも同じようなことができな  
いか？できれば参考にしたいと思ったのですが、難病の家族と短期間過ごして、病院では見えないことを多々教えてもらいました。食事、入浴の大変さ、家族の中の父親の役割、兄弟たちの気持ちなど、総じてわかったことは、このような試みに特定の魔法や薬はないということです。当事者の熱意を元に様々な人たちが関わって自分たちで作り上げていくことが必要だと感じました。

守る会のみなさんの意見を聞きながら、いつか大崎キャンプを行いたいと思っています。

これからの大崎重症心身障害児を守る会(者)の更なる発展をお祈りします。



H20.7.13  
シンポジウムにて

## 地域とともに・・・

大崎地域相談支援センターさてら  
大 森 ゆき子

大崎重症心身障害児(者)を守る会設立10周年おめでとうございます。

私にとって守る会との出会いは、10年ほど前に第二あやめ学園を会場にして行なったスヌーズレンでした。

スヌーズレンって何・・・?と思い参加しましたが、自分がその中でとてもリラックスしたことを覚えていてます。また参加した方がみんな感覚の刺激を受けて表情が変わったことも覚えていてます。自分の知らない世界を体験させていただきました。

その後も夏休み期間中の夕涼み会・定例の茶話会などに参加し一緒に楽しんだり、活動する中で学ばせていただく事も多く、守る会が地域に根を張って活動していることを感じています。

今後、自立支援法もどのように変わるか不透明ではありますが、「最も弱いものをひとりももれなく守る」という守る会の理念をもってますます地域の中で躍進されていくことを願っております。

## 「大崎重症心身障害児(者)を守る会」10周年にあたって

イオンリテール(株) ジャスコ古川店  
店 長 椎 名 孝 夫

「大崎重症心身障害児(者)を守る会」発足10周年おめでとうございます。

私どもジャスコ古川店と「大崎重症心身障害児(者)を守る会」様との出会いは、イオングループで取り組んでいる「幸せの黄色いレシートキャンペーン」にご参加頂いたことから始まります。

イオングループでは毎月11日をイオン・デーとし、清掃活動などの地域貢献活動を推進しております。幸せの黄色いレシートキャンペーンは、その取組みのひとつです。

地域のボランティア団体様などの名前と活動内容を書いた投函BOXを店頭置き、お客さまがレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、お買い上げ金額合計の1%をその団体様などに希望する品物で寄贈させていただくという取組みです。

今後もこの主旨をご理解いただき、イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンに多くの皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年度より還元品を子ども達の為に  
ほなみ園・支援学校・第二あやめ学園・宮城病院あすなる病棟  
に寄贈させて頂いております。

## 10周年おめでとうございます

賛助会員 松野 あやえ

大崎重症心身障害児(者)を守る会設立10周年、おめでとうございます。会員の皆様は、感慨深い思いで10年を振り返られていることと思います。継続は力なり、本当に素晴らしいと思います。

私が皆様と初めてお会いしたのは、古川児童相談所(現 北部児童相談所)に勤務していた頃で、大崎守る会ができる前でした。お母様方は、お一人お一人、我が子のためにどのようにしていけば良いのだろうと考え、子どもさんの病気や障害に向き合い、一生懸命子育てをされていました。しかし、子どもさんのお世話や通院等で外出も思うようにできず、親御さん同士でやりとりできる機会も少なかったようでした。

その後、大友会長様を先頭に、大崎守る会設立までも地道な活動があり、設立に至ったと記憶しています。私は、大崎守る会が設立されて間もない時期に異動になり、遠くからエールを送っておりました。

そのような中、平成18、19年度に大崎保健福祉事務所(現 北部保健福祉事務所)勤務になり、再度、守る会の皆様と接する機会を持たせて頂きました。久しぶりにお会いする子どもさん方がとても大きくなっていくことに驚きましたが、それ以上に、お母様方が自分の言葉で自分のことや子どもさんのことを話し、とても生き生きされていることに感激しました。仲間がいるという安心感や子どもさんを育ててきた自信が伝わってきました。

会の活動についても、県内各地に分会ができ、大崎守る会がお手本になっていると感じます。また、アンケート調査、市への要望書の提出、夕涼み会等地域に根ざした活動に発展されてきたことは、日々の積み重ねの結果だと思えます。

10年の間には、充実した楽しい出来事だけではなく、つらいこと、苦勞したこと、悲しいこと等様々なことがあったと思いますが、これまでを振り返るとともにこれからの10年に思いを馳せ、今後夢の実現に向けて取り組まれることを祈念しております。名ばかりの賛助会員ですが、これからもよろしく願います。



H19.12.23  
クリスマス会にて みんな笑顔です



この10年の感謝を込めて  
会員みんなで書きました



## 「10年という時間」

戸塚 裕子(暢くん)

今年13歳の息子が生後1ヶ月で専門の外科治療が必要とわかった時、とにかく治療してもらいたかった、大きな傷痕が残っても、後遺症が多少あっても、治療してもらえば...とっていました。

療育指導の母子入所が終る頃には、息子が生きていくには、車椅子と介助の手が一生必要になると考えました。

心身重症障害児は、人数が少なく体力がなくて外出することが少なく、今、大崎市で生きていることさえ知ってもらえないこともあります。

...でも、誰だって顔も知らない子のことはわからない。

心身重症障害児は、食べること・息をすること・体を思った方向に動かすこと・オシッコやウンチをすること・喋ること...etc.が難しかったりするけど、喜怒哀楽とともに大崎市で暮らしていることを知ってもらって、子供の成長を喜んでくれる人が一人でも多くなるように、これからも知恵をしばりたい...、そうすれば医療面・生活面と。10年先はもっと充実してくるかも...と希望を持っていたいと思います。

## 守る会に入って

佐々木 聖美(美樹さん)

私が守る会を知ったきっかけは、現大崎守る会会長からの誘いでした。

どんな会なのか把握しないまま「娘でも入れる会があるんだぁ。」という軽い気持ちで入会しましたが、今では一人じゃないということを実感させてくれる大事な会となっています。

大崎分会発会后、少人数ながらみんなで力を合わせているんな挑戦や勉強をしてきました。そのひとつひとつが親の成長につながってると思います。

今後も守る会の「最も弱いものをひとりもれなく守る」という基本理念と、この会を支援してくれる方々の暖かさを忘れず、活動を続けていきたいと思っています。

## ともに

板橋 由美(麻衣さん)

我が家のひとり娘、麻衣も早いもので14歳。来春には高校生です。そして私も母になって14年。とまどいながらも沢山の人たちに支えられ、今日までなんとか育てられてきたと思います。

14年前の今頃の私は、この現実をなかなか受け入れられず、子どもの顔を見ながら泣いてばかりいた様な気がします。そんな中、手を差し伸べてくれる人、私の話を聞いてくれる人、いろいろな人と巡り会い、今の私がいます。ちょっと図々しい母親になれたかなと思います。

人は、悩み立ち止った時、同じ悩みを話し合える友達ってとても良いものだと思います。私は「守る会」に巡り会って、先輩達の話の聞いたり、いろんなイベントを協力し合って成し遂げたりする経験が、とても良い力になっています。

そしてここ最近、同世代の会員も増え、とても楽しく活動しています。これからまだまだ勉強しなければならないこと、山のようにありますが、昔の私のような人が少しでも楽しみを見つけられるような、そんな存在になっていけることを願っています。

## 「10年目」をむかえて

早坂 真理子(康也さん)

有志の会から始まった大崎守る会が10年目をむかえられたのは、ひとえに周りの皆様方に支えられたおかげだと感謝しております。

本当に何もかもが手探りで、たくさんの失敗と迷惑をかけ、そしてまた、勉強もさせて頂きました。

この子の障害がわかった時、悲しみ悩み、元気に生んでやれなかったと自分自身を責める日々、笑えない日が続き、そんな頃に同じ様に障害をかかえた子を持つ先輩のお母さん方と話す事で、少しずつ癒されていくことができた自分。そして「いのち」の大切さ、笑うことの大切さを教えられたのが思い出されます。

会員の方々も、日々折れそうな心をかかえての療育ですが、わが子の「笑顔」に救われ、また頑張る力をもらう日々を送っています。笑顔の力は本当にすごいです。

この守る会が、今後もこうして悩める方々のささやかな支えになり続けていける様に、私たち会員は努力していきたいと思っています。

行事ごとに協力していただいている行政、ボランティアの方々、賛助会員の皆様、会員家族の皆様に日々感謝しつつ、また明日も「いのち」をみつめ続けて続けていきたいと思っています。

## 娘とともに

佐藤 萬記子(節子さん)

大崎守る会の大友会長さんに一生懸命に頑張っていたいただき、本当に感謝感謝です。  
10周年おめでとうございます。

私の娘は、昭和45年3月3日に生まれ、みんなで喜び合ったのも1ヶ月だけ、家に帰った時から、町の医者に行き、仙台の病院、あらゆる病院を歩きました。あちこちから歩いているうちに、「手術した人が治った。」という病院を見つけましたが、「手術しても、遅すぎた。」と言われました。

それから、大学の先生に宮城病院あすなる病棟を紹介していただき、入所をお願いすることになりました。

今は、風邪もひかず、職員の皆様の手厚い介護ですごしております。  
また、昨年より山元支援学校の高等部に入学し、現在2年生になりました。何より、笑顔が増えました。声も出すようにもなりました。校外学習で今までに目にしたことのないいろいろな場所に行っています。プールや海、足浴、音楽隊を聞きにも行きました。私も一緒に行きますので、私までも娘と一緒に楽しみができました。

私も娘に負けないように頑張りたいです。

これからもみなさんよろしくお願いいいたします。

## 子供達ひとりひとりの成長を願って

千葉 陽子(大輝くん)

この度は大崎守る会10周年おめでとうございます。

会の中でも皆、病気も違い症状も違いますが皆子供達と笑ったり泣いたりしながら多くの方々の支えの中で今日まで過ごして参りました事、心より感謝申し上げます。

重症の子供達は努力を重ねてもなかなか結果に結びつかず常に病気を抱えて、今以上重症化しないよう考え子供を守りたい思いが先にくるため行動に欠けてしまい理解して頂きにくい所がありますが、重症の子供達も心に響き合うような努力の積み重ね、かかわり合う事、お互いの意欲さえ合えば成長し伸びる芽を持っていると思います。

だから私達は決して不幸ではなく子供達に手をとられ笑顔に支えられ喜びや悲しみもあり幸せだと思っています。ただこれからの人生、厳しくなる事と思いますが希望を持って明るく過ごしていきたいと思っています。

今後共、私達を見守って下さるよう心よりお願い申し上げます。

## 息子と散歩

門田 理恵(良太くん)

最近、息子と近所のおばちゃんと散歩を楽しんでいます。学校から帰ると散歩はまだかと車いすに座ったまま待っています。

おばちゃんが息子の車いすを押してみて、「周りの人の人間性がわかるね。」やさしく見守る人、かわいそうな目で見ると、変わったものを見るかの様な人、早く行けと邪魔なように見る人、さまざまな人がいると私に話してくれました。また、散歩中の犬も同じで、見たことがない車いすにびっくり、名前を呼んでもいやがり近くに来てくれない様子を見て私も息子もちょっとがっかり、犬が大好きなので寂しそうです。

やはりまだ理解してくれている人は、少ないなあと思いました。

守る会に入ってまだ1年と4ヶ月です。まだわからないことが多々あります。これからも息子たちのためにもいろいろなことを学んでいきたいと思っています。

## 守る会との出会い

野田 由美(悠斗くん)

守る会に入会して一年になります。

息子が学校に入り、日中に少し自分の時間が持てるようになった時に、守る会のシンポジウムに参加しました。会のお母さん達の発表を聞いて、私も同じ悩みを抱えていたので、即入会を決めました。

守る会に入会してからは、定例会や多方面の方々との福祉茶話会に参加して、とても勉強になりました。私自身も悩みを相談出来る場も出来て、先輩方にアドバイスしていただき、今や無くてはならない憩いの場になっています。

先日は、要望書を提出に息子と一緒に参加しましたが、市長さんをはじめ、関係者の方々や新聞社の方々においでいただきました。このような場は初めてだったので、とても緊張しながら要望書を読み上げました。

そして、要望に対して前向きな回答を頂きました。やはり、以前からの活動が良い結果に繋がったのだと思いました。

この一年、色々な場に参加してみて、私達の回りに沢山の人達に支えられているのを実感しました。そして、皆で力を合わせて大きな声にする事で、周りの人達の理解も得られ、人と人の輪も広がっていくのだと思いました。これからも子供達の為に、皆さんと頑張っていきたいと思います。



## 守る会に入会して

安部 千代江(あかねさん)

守る会に入会して3ヶ月、福祉茶話会や夕涼み会に参加しました。

茶話会は日頃から関わりのある保健師さんや主任児童委員さんとの話し合いで、子供達の様子を知って頂いたうえで、地域防災などを中心に、現状やこれからの課題、そして、意見交換、小さな事にも親身になって答えて頂き、沢山の話を聞く事もできました。

夕涼み会は、親子での参加を楽しみにしていたのですが、娘の体調がすぐれず、親のみの参加で少し残念でしたが、参加していた子供達の笑顔を見ることができ、子供達ひとりひとりに、やさしく声をかけてくれるボランティアさんには感激しました。

来年は是非とも娘と一緒に参加をしたいと思います。

どの行事も、とても有意義な時間を過ごすことができました。これからも親子共々よろしくお願ひいます。

## 親子で頑張っています。

滝島 恵美(健人くん)

昨年から東北大学病院に入院中です。

小学部の卒業式も病院の中で院内学級の教室をお借りして、健人のためにご配慮をいただきました。本当に嬉しかったです。

心臓の弁の手術は成功したのですが、退院の道はちょっと遠いのです。

仲間からのメールに、みんなそれぞれに頑張っていることに励まされ、親子で退院目指して頑張っています。

## 守る会に入会しました

赤岩 徳子(拓也くん)

10年前から守る会のことを知っていましたが、子どもが訪問教育を受けていることもあり、行事に参加することが困難でした。

私の病気の手術のために、短期入所を西多賀病院にお願いをしました。練習は1～2回しか遠くて体験できませんでしたので、不安で心配で仕方がありませんでした。実際には思っていたより息子は体調も大きく崩すことなく過ごしていることに、離れられないのは、母親の私のほうだったようです。

私の退院後も体調が優れず、自分が2階へ上がることもままならない状態でした。短期入所先の西多賀病院の指導員の皆さんや、地元の保健師さん、相談支援事業所さん、卒業後でしたが支援学校の担任の先生にも一緒に相談にお願いいただき、私の体調の回復を目指して入所を決意しました。

現在は、月に2度の面会に行くのがやっとです。県北に施設があるといいなあ実感しています。

今年10月より守る会に入りました。どうぞよろしくお願いいたします。

## 思い出のアルバム



H11.9.29 発会式  
宮城県大崎保健福祉事務所にて

今から10年前  
麻衣ちゃん・ノンちゃん  
ちっちゃいなあ(\*^^\*)





H21.7.19 夕涼み会  
親子でステージに上って歌を披露(^ ^)  
ジャスコの新人さんによる歌のステージも

H21.10.16  
大崎市要望書提出後  
市長さんと一緒に



H17.7.15 宮城県守る会初代会長  
田中美代子氏を囲んでの茶話会



シンポジウムのイメージイラスト  
「生きとし生けるものみな笑顔で過ごしたい」をテーマに  
今井 彩香(宮城県古川黎明高等学校)

# ほほえみ

## 10周年記念号

発行責任者 大崎重症心身障害児(者)を守る会  
会長 大友 祥子  
TEL 0229-22-1727  
平成21年11月4日発行

平成21年10月31日現在の会員数 14名

編集係 賛助会員 今井 淳子  
今井 彩織

大崎守る会10周年おめでとうございます。  
懐かしい写真を沢山拝見しながら  
楽しく編集させて頂きました。